

(別記)

## 令和3年度佐久穂町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

佐久穂町では、人口の減少と高齢化が徐々に進行している。これに伴い遊休荒廃地の面積も徐々に増加している。カーネーション、キク、アルストロメリア、トルコギキョウは佐久穂町の特産品として首都圏または関西圏の市場を中心に出荷されている。標高約700mの冷涼な気候により質の高い花が栽培され高い評価を得ているが、生産人口の高齢化等により生産面積は徐々に減少している。

今後は、産地交付金を利用しながら野菜・花き・そば等を中心とした農産物生産面積の維持と新規就農者の誘致を行っていく必要がある。

### 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

野菜については、認定農業者・新規就農者を中心に、低コスト生産技術の導入及び普及や農地の集積・集約化を図りながら生産面積を維持しつつ、新たな販路開拓に向けて支援を行っていく。

果樹については、プルーンを中心としてブランド化を進め、生産面積の増加と所得の向上を目指す。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

地域の担い手や中山間地域等直接支払事業の実施状況等を踏まえ、畑地化が可能であるか検討していく。

園芸作物の振興のため、畑地化が可能な地域で推進を行っていく。

### 4 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

毎年約3haが自然減となっているが、主食用水稻作付面積の減少は遊休荒廃地の増加と結びつく可能性があるため、利用権設定や中間管理事業の利用により農地の流動化を図る。

#### (2) 備蓄米

#### (3) 非主食用米

##### ア 飼料用米

生産数量目標達成のため主食用米からの転換を図り、令和元年度では27名の農家が生産し18.0haの生産面積で取組んでいる。令和元年産米価格は好調であったが、令和2年産以降は米価格の下落が懸念されるため、産地交付金を利用し引き続き生産を行っていく。

支援内容として、土壌診断・生育診断に基づく施肥管理、温湯種子消毒、側条施肥、流し込み施肥、プール育苗、疎植栽培、農薬の苗箱播種同時処理、農

薬の田植え同時処理、多収性品種の導入等のコスト削減のうち、2つ以上の取り組みを行った者を対象とし、水稻育苗講習会等で定着を図っていく。

なお、令和2年度実績では24名の農家が16.5haの生産を行った。

#### イ 米粉用米

#### ウ 新市場開拓用米

#### エ WCS用稲

#### オ 加工用米

生産数量目標達成のため主食用米からの転換を図り、令和元年度では27名の農家が生産し、6.5haの生産面積で取組んでいる。米の直接支払交付金の廃止と好調であった令和元年産米価格のため生産面積の減少も懸念されるが、生産数量目安値達成のため産地交付金を利用し引き続き生産を行っていく。

支援内容として、土壌診断・生育診断に基づく施肥管理、温湯種子消毒、側条施肥、流し込み施肥、プール育苗、疎植栽培、農薬の苗箱播種同時処理、農薬の田植え同時処理、多収性品種の導入等のコスト削減のうち、2つ以上の取り組みを行った者を対象とし、水稻育苗講習会等で定着を図っていく。

なお、令和2年度実績では26名の農家が6.4haの生産を行った。

#### (4) 麦、大豆、飼料作物

麦、大豆は生産が少量のため農産物直売所等や個人販売で流通している。飼料用作物は自家利用を中心としており作付けに大きな変動はない。

#### (5) そば、なたね

遊休荒廃地対策としてそばの作付けを行なっている。長野県が開発した信濃S11号（信州ひすいそば）の産地化を目指す。

#### (6) 高収益作物

カーネーション、キク、トルコギキョウ、アルストロメリアは、佐久穂町が平成17年に誕生する以前より、旧町村と農協が協力し振興を行ってきた特産品である。これらの花きを含め、高収益作物は特産品の維持と生産者の所得向上などを目標とし振興を図っていく。

また、エゴマ・若松・ユーカリについては、遊休荒廃地対策での水稻に代わる新たな特産品として振興を図り、作付面積の拡大を目指していく。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	255.0	248.8	245.0
備蓄米			
飼料用米	16.5	16.5	17.5
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲			
加工用米	6.4	7.4	8.5
麦	0.6	0.6	0.6
大豆	3.7	3.7	3.7
飼料作物	3.5	3.5	3.5
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0
そば	19.9	21.0	22.0
なたね			
高収益作物	60.0887	60.1800	62.2200
・カーネ外	11.7195	11.7200	11.7200
・若松外	1.8599	1.8600	2.0000
・野菜	43.7717	44.1000	45.4000
・花卉	1.7171	1.5000	1.6000
・果樹	1.0205	1.0000	1.5000
その他			
畑地化			

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度(実績)	目標値
1	飼料用米	生産性向上と作付面積確保への取り組み	定着率 作付面積	(令和2年度) 79.5% (令和2年度) 16.5ha	(令和5年度) 95.0% (令和5年度) 16.5ha
2	加工用米	生産性向上と作付面積確保への取り組み	定着率 作付面積	(令和2年度) 79.5% (令和2年度) 6.4ha	(令和5年度) 95.0% (令和5年度) 8.5
3	カーネーション、 キク、アルストロ メリア、トルコギ キョウ	地域の特産品への助 成	生産面積	(令和2年度) 1171.95a	(令和5年度) 1172.0a
4	イクサ(エゴマ)、 若松、ユーカリ	新たな特産品として の支援	作付面積	(令和2年度) 185.99a	(令和5年度) 200a

5	野菜、3を除く花き・花木、果樹	地域振興作物の生産に対する助成	作付面積	(令和2年度) 4,650.93a	(令和5年度) 4,850a
6	そば・なたね(基幹)	そば・なたねの取組(地域の取組に応じた配分の対象分)	対象面積	(令和2年度) 2,054.63a	(令和5年度) 2,200a
7	野菜、花き・花木、果樹、加工米、新市場開拓米、飼料用とうもろこし(基幹)	高収益作物等拡大加算	拡大面積	(令和2年度) 797.21a	(令和5年度) 750a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。